

令和4年度第2回斜里町総合教育会議議事録

I 開催日時 令和4年11月22日(水)
開会 午後3時35分
閉会 午後5時05分

II 開催場所 斜里町役場大会議室

III 出席者

【構成員】

斜里町長	馬場 隆
斜里町教育委員会	
教育長	岡田 秀明
職務代理者	長谷川 宏文
委員	西原 重雄
委員	門田 眞由美
委員	佐々木 王佳

【事務局】

総務部長	増田 泰
健康子育て課長	茂木 千歳
企画総務課長	鹿野 能準
学校教育課長	菊池 勲
斜里町地域 プロジェクト マネージャー	初海 淳

IV 内容

1 開会

2 町長あいさつ(要旨)

- ・これまで何度も総合教育会議に出席しているが、教育委員の方が全員集まるのは初めてではないかと思う。みなさん忙しい中、お集まりいただき感謝する。
- ・今回の議題として、10月1日の機構改革に伴う、ぼると21の新体制について健康子育て課の新課長である茂木より説明をさせていただき、意見交換ができればと思う。

3 意見交換

「ぼると21の新体制と健康子育て課の業務について」

健康子育て課長 茂木 千歳

(要旨)

・令和4年10月1日より総合福祉センター「ぼると21」に新設した健康子育て課の業務について説明を行った。旧体制である保健福祉課が地域福祉課及び健康子育て課の二つの課となったことで、生活困窮・介護・包括支援・健康・子育ての5部門に整理されることで、細やかな支援対応に期待ができる。一方で、各部門で専門性をもった支援を継続的に進めていくために人材の確保が課題である。

・実際に学校授業で使うプレゼン資料を駆使し、各学校への教育についての説明を行った。

・授業の際に実際に伝えている「知識は命を守る」という発言を例に、様々な知識をもってもらうため、授業に参画している。また、授業の際に生徒から手紙などで悩みを相談されることもあり、必ず回答するようにしている。

・健康子育て課・子育て支援系の業務の一つは、「母子健康法」に基づく「斜里町子育て世代包括支援センター」であり、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援体制の構築を目指すもの。もう一つは「児童福祉法」に基づき「斜里町子ども家庭総合支援拠点」として、子どもとその家庭及び妊産婦等の福祉に関し、必要な支援に係る業務を行い、特に要支援児童及び要保護児童等への支援強化を図ることが目的である。また、「要保護児童対策地域協議会」として関係機関が情報を共有し連携して対応するといったことも求められている。

●質疑等

・佐々木委員：今回のプレゼンを聞き、自分の子どもたちも「ぼると21」の職員に育ててもらったのだなと感じた。

・西原：キーワードとして「つなぐ」ということに対し、様々なつながりを持って連携しながらつないでいくことが重要である。

・町長：気軽にサポートできる体制を構築することが重要で、西原委員のおっしゃるとおり、それぞれがつながりを持つことで連携していけるものである。

・門田委員：ぼると21で行ってくれているきめ細やかな授業について感謝の気持ちである。自身は習字教室を営んでおり小・中・高生100名程度に教えているが、その中でも恋愛について相談を受けることがある。どういうプロセスを踏んで、家庭を持つということが変化しているように感じられる。恋愛についても授業の中に取り入れてもらってもいいのではないか。

・茂木：授業の中には恋愛についても一部取り扱っており、相談がある。相手との距離の取り方について学んでいく必要がある。

- ・門田委員：愛着と恋愛の区別は難しく、子どもたちは区別できていないと思う。
- ・町長：子どもたちが愛情に飢えているなどがあるのではないか。
- ・門田委員：我々もそうだが、それぞれ人との距離感は違うので、人との距離感の取り方については難しいものがある。
- ・長谷川職務代理者：今回のプレゼン教材を作成するにあたり、茂木課長は楽しんで作成しているように見受けられる。教員の方は ICT の導入等についていくのがやっとなりで義務感で作成している方もいると思われ、そうした気持ちで作成しても子どもたちにはなかなか伝わらないものだと考える。
- ・教育長：今回のプレゼン例であったように家庭環境に問題を抱えている子どもたちについては、学校教育だけでは難しい部分である。また、長谷川職務代理者がおっしゃる資料の作成等に関する義務感についてであるが、伝える側も熱量をもって接しないと子どもたちに響かないものであると感じている。外部から講師を呼び授業を行う際にも、教員自らが学ぶ姿勢をもつことが重要である。
- ・増田：社会の変化により、人とのコミュニケーションに関する距離感の取り方など、変化が起きているように感じる。
- ・鹿野：町が教育環境を支えていくため、町長部局も教育について携わっていく必要がある。今回のプレゼンのような授業などを行っていくことも重要なことである。
- ・初海：プレゼンは非常にわかりやすく、斜里町でこうした教育が行われていることが嬉しく感じる。スマートフォンの普及が当たり前となっている中、スマートフォンを使う怖さを教えたいと思う。
- ・町長：スマートフォンに限らず、単純な取扱いだけでなく、どのようなプロセスを経てどのように使うかなど重要である。
- ・菊池：PTA の会議の際にもぜひ講師として、今回説明したようなプレゼンを行ってもらえるとよいと感じた。恋愛について話が出たが、子どもたちも相手に対し、断るときは言葉を選ばないと、言い方によってははじめと認定されてしまうこともあるため、恋愛教育は難しい。また、ネットモラルに対しても重点的に教育をしていかなければならない事項であると感じている。
- ・教育長：スマートフォンに関する良さ・怖さについては学校でも年1・2回授業を行っているが、浸透させるのが難しい。怖さを伝え続けていく重要性は学校教育だけでは伝えきれないものである。
- ・町長：ネットモラルについては、自分たちの頃とは大きく変化しており、内容をかみ砕けない部分も多く、難しい問題である。